

写真家・土門拳 没後20年

DOMON  
KEN

# 土門拳の見た 日本人



2010年 4月1日(木)～5月30日(日)〈会期中無休〉

開館時間＝9時30分～17時30分(最終入館は17時)

入場料＝一般1,000円(4枚セット券3,000円)、大学生800円、高校生500円、中学生以下無料

主催＝財団法人岡田文化財団、中日新聞社

特別協力＝財団法人土門拳記念館

協力＝池田真魚、株式会社写真弘社

協賛＝小学館

監修＝重森執氏

後援＝NHK津放送局、三重テレビ放送

企画協力＝財団法人NHKサービスセンター

展覧会関連イベント

写真撮影講座 4月25日(日) 10時～ 協力:中日写真協会

講演会「土門拳の生涯」 5月1日(土) 14時～ 講師:重森執氏

paramitamuseum 財団法人岡田文化財団

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6 Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077  
http://www.paramitamuseum.com E-mail=office@paramitamuseum.com

上より: 江東のこども とかけ 1955/傘を回すこども 小河内村 1935ころ/森繁久彌(1913-2009) 1957  
© KEN DOMON



「日本人としてのぼくは、どこの国よりも、日本が大好きである。  
そして日本的な現実 に即して、日本的な写真を撮りたいと思っている。」  
(土門拳『死ぬことと生きること』より)

写真界の“鬼”と言われた土門拳。彼が大切にしてきたテーマは「日本」、そして「日本人」です。土門拳(1909-1990)の名作『古寺巡礼』は、日本の古典文化を独自の視点から追求した不滅の業績です。日本美に迫りながら日本人とは何かを考察しています。しかし忘れてならないのは、同時に日本の社会と日本人を鋭いメスで凝視し、絶えることなく日本の社会的矛盾を問いつけてきたことです。数々の街と人間を作品化したのも、この姿勢からうまれてきたものです。決して現実暴露ではありません。作品の根底にあるものは“土門拳のヒューマニズム”です。人間愛と言葉を換えてもいいでしょう。

土門拳は度々、「自分は日本と日本人が好きだ」と言い続けてきました。今回は代表作を中心に、昭和を生きた人々の姿をとらえた土門拳のすぐれた人間洞察を約250点の作品で振り返ります。

写真家・土門拳没後20年

# DOMON KEN 土門拳の見た日本人



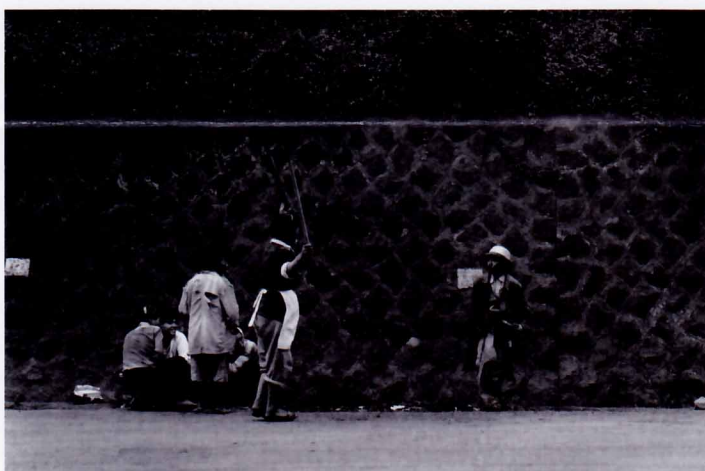
筑豊のこどもたち るみえちゃん 1959



梅原龍三郎(1888-1986) 1941



棟方志功(1903-1975) 1941



焼芋泥棒 上野山下公園 1950



江東のこども 近藤勇と鞍馬天狗 1955

■ 次回展覧会

第5回パラミタ陶芸大賞展 2010年6月1日(火)～7月30日(金)

毎年開催しているパラミタ陶芸大賞展も第5回を迎えました。本年も全国の美術関係者の推薦により現在活躍中の6名の陶芸作家による展覧会を開催いたします。どうぞご期待ください。

出品作家 ● 富田美樹子(大阪)、福本双紅(京都)、森野彰人(京都)、山田晶(滋賀)、吉村敏治(京都)、若尾経(岐阜)

交通機関

■ お車をご利用の場合＝東名阪四日市ICで降りて国道477号(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。無料駐車場あり(普通車100台、大型バス駐車可)

■ 電車をご利用の場合＝近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分「大羽根園駅」下車、西へ300m。全館バリアフリー、車椅子常備

paramitamuseum 財団法人岡田文化財団

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6 Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077

http://www.paramitamuseum.com E-mail=office@paramitamuseum.com

